

令和2年度 学校自己評価表 米子松蔭高等学校

学校教育目標 「社会で真に役立つ実践的な人材の育成」
① 自主自立の精神の涵養 責任と義務を尊重しつつ、自ら進んで目標に向かって努力する精神を養う。
② 人間性の陶冶 規律を守るとともに、人の苦しみや悲しみを正しく理解し、適切な行動のできる豊かで調和のとれた健全な人格の育成をめざす。
③ 勤労を尊重する精神の育成 勤労を尊重する精神を養い、社会に貢献しようとする意欲を育成する。
④ 進路指導の充実 生徒の興味・適性・能力を尊重し、適切な進路の決定ができるよう指導の充実を図る。
⑤ 学習指導の充実 わかりやすい授業を心がけ、生徒の適性に応じた指導に努める。
⑥ 生活指導の充実 生活面の指導を大切に、正しい服装容儀、規律ある生活態度で生きる姿勢を育成する。
⑦ 部活動の充実 顧問と生徒が目標に向かって共に努力してゆく中で、協調性・責任感・忍耐力を養う。

本年度の重点目標
建学の精神に基づき、これからの社会が必要とする人材の育成に努める。広い視野と知見を持ち、多様な価値観の中から、主体的に新しいものを創造していくことのできる力の育成を重点目標とする。

評価について A 達成できた B 概ね達成できた C やや不十分な点あり D かなり改善の余地あり E 全く不十分 () 評価せず または 評価できず

学年分掌	令和元年度末の状況	令和2年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
教務部	○ (教務) タブレット端末の活用機会が徐々に増え、ICTが与える授業への効果にも期待ができる。学習指導方法が多様になる中で、協働性の高い授業や、教員同士の情報共有がこれまで以上に必要になってきた。また、全校や学年を単位として活動する機会が、生徒の学校生活に秩序と変化を与える役目を果たした。	○ 学習指導の充実を図る。 ○ 授業時間の確保に努める。 ○ 学校行事の円滑な運営に努める。	○ 生徒による授業評価や相互授業見学を継続して実施する。タブレット端末を用い、ICTを生かした授業の促進を図る。 ○ 月間・週間計画、日課の調整や変更を迅速に行う。 ○ 前年度までの学校行事の運営を振り返り、都度、改善しながら早めの計画と円滑な運営を行う。	B A B	○ タブレット端末の活用機会が増え、授業におけるICTの活用が進んでいる。授業アンケートは7月に実施した。ICT活用の推進には教員同士の情報共有が不可欠であるため、継続して相互授業見学を積極的に行っている。 ○ 臨時休業や行事変更等に速やかに対応するよう努め、授業時間の確保ができている。 ○ 円滑に行事を運営できている。一方、複数の行事が中止や延期になる中、新たな様式での式典等の形を模索していかなければならない。	B A A	○ 相互授業見学と2回の授業アンケートを計画通りに実施したが、事後の活用が十分ではなかった。タブレット端末を授業で使用する場面が増えるなど、ICT活用も円滑に進み学習指導の充実が図られた。 ○ 行事変更への対応や日課の調整を速やかに、授業時間を最大限確保した。 ○ 新たな様式に対応しながら、行事を円滑に運営した。	○ ICT活用は、わかりやすい授業や双方向型の授業を実現させる有効なツールとなっている。引き続きICT教育を進めていく。 ○ 大型連休や月曜日の祝日に留意し、時間割の編成には工夫が必要である。 ○ 新様式での行事の運営において、臨機応変に対応する必要がある。
	○ (図書) 丁寧なレファレンスと資料提供に努め、授業支援の回数は増加傾向にある。また図書館の環境を整備することにより、生徒の読書、学習への姿勢に変化がみられた。引き続き、「読みたい気持ち」、「学びたい気持ち」を大切にしながら、図書館づくりに取り組むとともに、生徒・教職員に向けて図書館の使い方やサービスについても積極的に広報し、周知する必要がある。	○ 読書、学習環境の整備、授業支援の充実を図る。 ○ 生徒・教職員に向けて、図書館を魅力的に広報する。	○ 配架やコーナーを工夫し、整備することによって生徒が「読む」「調べる」活動をスムーズに行えるようにする。 ○ 丁寧なレファレンスと豊富な資料準備を基本に、生徒に対しては資料の集め方や情報の活用の仕方について、授業の中で図書館オリエンテーションを効果的に行い、支援する。 ○ 本、図書館の魅力を感じられる広報誌を生徒とともに作成し、配布する。職員に向けても広報誌を作成し、資料を紹介する機会を増やす。授業に特化したサービスについても広報し、周知する。	A B	○ 館内の配置を見直し、探究授業を支援するためのコーナーを作成した。「読む」「調べる」エリアを区別することで、それぞれの活動がスムーズに行えるようにした。資料の集め方、情報の活用の仕方についても授業内でワークシートを配布したり、オリエンテーションを行った。 ○ 授業に特化した図書館サービスについて教職員に周知した。授業での図書館利用が増加したことに伴い、生徒が資料を活用して学習に取り組む姿が多く見られた。広報に関してはタブレット等も活用し、もっと努力していかなければならない。	A B	○ さまざまな機関と連携し、授業内容やイベントに合わせて展示を行ったり、資料を取り寄せて活用した。図書館オリエンテーションの内容を活かして資料を探したり、レファレンスサービスを利用して積極的に情報を収集しようとする生徒が多く見られた。 ○ 広報として学校図書館司書が高校生にすすめる本のパンフレットを配布し読みやすくなった本への投票と合わせて展示を行った。現在、広報誌の作成にも取り組んでいる。	○ 図書館についてのアンケート等を行い、生徒、教職員の声を聞き、次年度の運営に反映させる。生徒、教職員が安心して活用できる図書館づくりに次年度も取り組んでいきたい。 ○ 休校に伴い生徒が図書館に来館し資料を手にとることが難しい場合でも、必要な情報を提供できたり、情報の活用方法を情報共有できるようにサービスを実施したい。

学年分掌	令和元年度末の状況	令和2年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
総務部	○ 入試の受験料支払方法の変更や調査書の様式変更については中学校より良い評価を多数いただいた。 ○ 校内における入試事務作業については概ね円滑に進めることができたが、細かな部分で改善の余地が見られた。 ○ 各事業において松萌会役員の積極的な参加が見られた。 ○ 1号館を中心に校舎の老朽化が目立つ箇所がある。	○ 正確で円滑な入試事務作業の実施 ○ 学校と保護者との協力関係のさらなる構築 ○ 校舎の環境保全に努める	○ 説明会資料や出願書類等、中学校に向けてわかりやすいものを作成する。 ○ 出願から新入生説明会までの業務をスタッフ全員で共有するとともに各自が責任をもって役割を果たす。 ○ 松萌会役員とのより一層の連携を図り、会員の各事業への参加者を増やす。 ○ 環境・防災のスタッフで定期的に校内を見回り、古くなった部分や破損箇所を早期に改修することで生徒が落ち着いて学習活動に取り組めるよう、学校環境を整える。 ○ 歴史ある校舎に生徒が愛着を持てるよう、日々の掃除を徹底させる。	() () B	○ 入試実施時期ではないため評価できず。 ○ 新型コロナウイルス感染症の影響で例年予定されている学校行事が中止となり、松萌会活動ができにくい。 ○ 破損箇所の改修については概ね早い段階で取り掛かることができた。 ○ 日々の清掃が行き届いていると思われるが、なお一層の環境美化に努めさせる。	B () A A	○ 前期終了時点では大きな問題点は見受けられなかったが、所々修正点が見受けられた。 ○ 新型コロナウイルスの影響により、各行事が中止となり、評価できず。 ○ 中間評価以後も破損箇所の改修はすみやかに進めることができた。 ○ 多くの教室で日々の清掃が行き届いていた。	○ 円滑な入試業務を行う。 ○ 世の中のコロナとのかかわりを見ながら、学校と保護者との協力関係のあり方を探る。 ○ 継続して校舎の環境保全に努める。

学年分掌	令和元年度末の状況	令和2年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
進路指導部	○ 就職 潮目が変わってきている。来年度どう流れるのかは来年度になってみないと分からないが、最悪の場合を想定し、対策を立て対処する。 ○ 社会人として「就職」することの大切さ・責任感が近年薄れてきている生徒が多い。また、研究不足による早期離職が社会全体的に多い。 ○ 進学 学力向上のために、授業の大切さを促していき、定期考査・模試・検定などを学習目標として学習意欲を持続させた。また、模試の結果を分析し、教員の教科内での指導方針など話し合い学力向上に努めた。	○ 経済状況は不安定であるが、生徒一人ひとりをよく理解し、能力・適性に合った進路指導に努める。 ○ 生徒の早期離職に繋がらないように、応募前見学・企業研究を十二分に促し、就職した企業へのミスマッチが減るよう努める。 ○ 生徒それぞれに興味関心のある事を持たせ進路選択の幅を広げる。 ○ 生徒の希望進路合格を目指す。 ○ 基礎学力の向上を目指す。	○ 今年度は昨年度卒業生徒の就職先訪問が出来ないが、電話などで状況を把握しながら、本年度の各企業の採用計画を聞き出した。また、企業との関係性は今まで培った信頼関係がカバーしたい。 ○ 担任及び部活動顧問・家庭、時には関係機関との連携を密にしながら、個別面談を重ね、適切な進路指導をする。また、時には企業研究のアドバイスをしながら希望とマッチしたより良い就職先選定の熟考を促す。 ○ 講演会の実施をやり方考えながら行う。また、生徒への資料提供も積極的に行う。 ○ 多種多様な受験の仕方があるが、生徒の実態にあった受験方法の指導をしていく。 ○ 教科担当、担任間の連携を密にし生徒の学力の共通理解をする。Classiなどのアプリを使って生徒の家庭学習のサポートをしていく。	B A B B	○ 今年度は高校生就職試験開始日の後ろ倒しなど、スケジュールの変更連絡が厚生労働省から入り、年度途中から年間行事の調整をした。また、第二波の流行を考慮し、手を打てるだけ打った。企業・生徒・保護者ともに個別の電話や説明動画の作成など必要に応じて対応したが、前年度と今年度では全く環境が変わったため手探りの状況が今後も続くと考えられる。日々新たな問題が発生し、かなり難しい年度ではあるが、できる限りの対応は今後もしていきたい。 ○ Classiを使って生徒保護者にOC等の案内が徹底できた。また進路講演会もリモートを使うなどして開催できた。 ○ まだ途中であるがAO入試や総合型選抜の活用を去年よりも多くしていき生徒の希望進路合格を目指している。 ○ 夏休み中のClassiの動画配信など生徒への家庭学習の呼びかけをしているが学習習慣の定着までには至っていない。	A A B B	○ コロナ禍で色々配慮しなくてはならない中、生徒達は上手に対応出来ていた。また、進路指導も都度、適切な指導ができた。 ○ コロナ禍の中でも学年部にも協力してもらいながら生徒保護者に情報共有が出来た。 ○ 今年度より新しい受験スタイルとなり多彩な受験方法で合格を目指した。不合格の生徒に対してその次の進路についての指導も継続してしている。 ○ 少しずつ学力の向上が見られるようになってきた。進路決定後も課題を出すなど工夫をしているがまだまだ向上の余地がある。	○ コロナワクチンを接種し、ウイルスの広がりを止めるにはまだまだ時間がかかりそうである。来年度も本年度と同様の内容を想定し、生徒一人ひとりをよく理解し、能力・適性に合った進路指導に努める。 ○ 今年度からオール普通科になったため今までも進路希望、特に大学に行きたいという生徒が増えてきた。1年次より進路に対する意識が持てるよう各種ガイダンス等を利用して生徒の意識を養っていく必要がある。特に授業に取り組む姿勢をもっと向上させる必要がある。教員間で問題共有をするなど、より密な連携を取っていく必要がある。

学年分掌	令和元年度末の状況	令和2年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> 概ね学校生活は落ち着いていたが、挨拶をもっと積極的にできるように継続的な指導が必要。また、近年SNSの利用についての問題行動が増えてきた。 登下校時の交通ルール違反(併進・一時停止など)や交通事故も数件発生した。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を身につけさせる。 生徒が安心して通うことができるよう指導に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 新入生は、オリエンテーションを通して学校生活に早く慣れさせる。 挨拶の徹底を全校集会やルームなどで呼びかけるとともに、通学指導などで教員からも積極的に声をかけてもらうようにする。 服装規定の遵守のため服装指導を徹底する。 社会のルールやマナーを理解し守るよう指導する。(講演会等も含む)・薬物乱用・SNS 他 登下校中に事故や被害に遭わないよう安全指導を徹底する。(各ルーム、立ち番指導等) いじめを許さず、見逃さない。生徒の言動に変わった様子はないか注意する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 比較的服装の乱れも少なかったように思う。しかしながら、少数ではあるが、化粧、ネクタイの着用があった。各クラス、授業において温度差なく指導の継続を行う。また、休校に伴い例年予定している講演会などが実施できていないので、2学期以降様子を見ながら実施を検討していく。 1学期を通して校門前、学校周辺危険箇所の立ち番指導を実施したが、教員の立っていない時間帯がルール・マナーを守れず、近隣地域の方に迷惑をかけている現状があり、継続して指導を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して立ち番指導を行ったがなかなか元気の良い挨拶が返ってくる生徒が少ないように感じた。服装に関しては、2、3学期ネクタイを忘れる生徒が目立った。 例年開催していた講演会を時期を変更して行う予定であったが、コロナ感染予防対策も考慮し本年度は全て中止とした。 交通安全については、自転車の併進、走行中のスマホ使用など危険運転があった。大きな事故にも繋がる恐れもあり今後とも指導が必要。 いじめに関しては、普段より担任を中心に生徒の状況を把握して、概ね適切に指導・対応ができていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、SNSのトラブルが多く発生した。コロナ感染予防対策として講演会を開催できなかったことあり、次年度は開催方法も考慮しながら節度のある通信機器の利用方法を学ぶ機会を作りたい。 登下校時の自動車での送迎を禁止しているが、守っていない生徒が目立つ。近隣の方に迷惑をかける事態となっているので対策を検討中である。
人権教育推進部	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスへの感染が世界的に拡大する中、特定の国や地域の人々への誹謗中傷がみられるという報道があった。 インターネット差別問題など、「差別の現実から深く学ぶ」教材の資料化に努めた。生徒もSNSと自らの関わりを考えた(特に2年部・2年生)。 言葉遣いアンケートの結果をふまえた啓発活動は、次年度にも引き継ぐ。部落差別とネット問題に詳しい講師の講演を実施し、生徒の人権意識が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症に対する対応を、人権への配慮の観点から考える。 同和教育で培われてきた原則、鳥取県人権教育基本方針(第2次改訂)をさらにふまえ、多様な人権課題へ対応し、生徒一人ひとりが主体的に考える技能・態度を養う。 言葉遣いアンケートを実施し、自他の言動を振り返り、心無い言葉の防止をめざす。人権講演会を、人権課題に意欲的な方をお招きして実施し、生徒の主体的判断力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 文科省、県教育委員会人権教育課など行政機関の通知・指針をふまえ、また、新聞各社の報道を社会的に分析し、本推進部の対応を検討し、教職員、生徒・保護者への啓発に努めていく。 人権教育資料、たとえば、性的マイノリティの方の人権に関する資料を集め、学習教材の開発に努めるなど、生徒が多様な価値観の中から、自ら考える技能・態度を養えるように導く。 前年度の言葉遣いアンケートをふまえ、啓発に努める。2学期にアンケートを実施し、とりまとめ啓発する。人権講演会の実現により、多様な価値観をふまえ、生徒が主体的に判断する力を高める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染が再拡大し、PCR検査陽性者(感染者)への誹謗中傷の報道が見受けられる。ホームルームや人権LHRでもこの問題を扱い、ふざけて冗談や悪口を言ったりすることが決してないよう、目下、人権課題として取り組んでいる。 性の多様性について、性的マイノリティの方の人権問題について、教材を研究中である。2学期、特に1年部を中心に上記課題に取り組み、生徒が自ら考える技能・態度を養う。 1、2年生に関して、それぞれ学年別に全体学習を実施し、前年度言葉遣いアンケートの集計結果の説明・不適切発言の防止に努めた。また、性の多様性に関する講演を通じ、生徒の主体的判断力を養う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年度初め、新型コロナウイルス感染症と人権上の配慮について、保護者・生徒向け文書を作成し、啓発に努めた。1、2年生人権ホームルームでは、新型コロナとクラスター報道の問題・コロナ後遺症への理解について、時間をかけて取組み、コロナ差別を許さない知識・技能・態度を養った。 多様な人権課題のうち、性の多様性に関わる人権課題について、1年部を中心に積極的に取組み、目標は大いに達成された。 言葉遣いアンケートを実施し、不適切な言葉の把握に努め、実態調査に向かった。性の多様性に関する人権講演会を実施し、生徒の主体的判断力を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症は未だ終息の目途は立たない。感染防止策の徹底とともに、感染症の問題は、誰にとっても考え続けなければならない人権問題でもある。一人ひとりが自分に關わることで考える資料の研究・開発が引き続き必要である。 性の多様性をテーマとする場合、SOGIまたはSOGIEの観点から、すべての人の人権問題というアプローチから入ることが必要であった。 ことば遣いアンケートの実施により、実態把握がよくなってきている。不適切な言葉の使用に対して、どう反省を促し、またすべての生徒への啓発はどうなされるべきなのかが次の課題である。
教育相談・支援	<ul style="list-style-type: none"> 学年全体として、個別の支援計画作成への協力・推進が図られた。 担任・学年主任・養護教諭・部活動の顧問を中心としたクラス支援、生徒支援の連携ができた。 支援、ニーズの多様化に対し、校内・校外問わず情報交換の場をより多く持つ必要がある。 校内連携会議を行い、校外の関係機関とも連携をはかった。 教育支援担当者以外の教員にも、研修の案内を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の支援計画の活用推進 校内連携を強めていく 他機関との連携作り 学校全体として支援理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の支援計画を作成し、支援会議を開き活用していく。 教員間で情報交換を行い、早期の対応に努める。 他校や医療機関、就労支援機関等と連携し、進路決定等多方面から支援をしていく。 研修会・講演会等の参加を積極的に促す。 SC・SSW・サポステ連携を通じて学校全体としての支援理解・学びを深めていく。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 例年より個別の支援計画の作成が遅れたので、少しでも早く作成できるようにはたらきかけていく。 担任、部活の顧問、学年主任、保健室等連携を図ることができた。特に1年生は様々な支援を必要としたので、もっと連携を深めていく。 特別支援学校との連携を図っていくことができた。2学期は進路決定にむけての支援を強化していく必要がある。 1学期の間は研修の機会がほとんどなかったが、WEBでの研修等も開催されるようなので、参加を促していく。 SC、SSWと校内関係者の会議を行うことができた。今後もより多くの先生方に相談室を利用していただくよう努めていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 作成は遅れたが、支援会議等で活用していくことができた。 担任、副担任、教科担当など多くの先生方とチーム連携をはかっていくことができたが、今後はより早く支援ができるようにしていきたい。 特別支援学校や、市町村の福祉課との連携を図っていくことができた。 研修の機会は少なかったが、今後はWEB開催が増えることが予想されるので、引き続き参加を促していく。 SC、SSWだけでなく校外の機関との連携について、より多くの先生方に知っていただき、相談室を利用していただくよう努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 作成の手順について、担任と再確認をする。 生徒の情報を教員が正確に共有していく必要がある。 今後も市町村や医療等と連携を深めていく。 相談室の利用について教員向け、生徒向けの案内の文書を作成する
広報	<ul style="list-style-type: none"> オープンスクール・説明会の参加者を増やすことができた。参加者数確保を継続し、入学志願者増加につなげるための、より効果的な実施内容・運営方法を検討していく必要がある。 Webページ・SNSによる情報発信を迅速に行うことができ、閲覧数・登録者数を確保することができた。引き続き、開かれた学校づくりのための広報活動を充実させ、提案していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> オープンスクール、学校見学説明会・入試説明会の充実と参加者の確保 開かれた学校づくりの推進と学校ブランディング 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生・保護者・中学校への的確な情報発信 オープンスクール等の実施内容の精査、円滑な運営 広報活動の充実 Webの更新・管理運営 SNS等による情報発信 	B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大により、オープンスクールの開催時期や内容の決定が遅くなったことで、各方面への情報発信に遅れが生じた。 感染対策を取りながらオープンスクールを適切に実施・運営することができた。 Webページ・SNSによる情報発信を迅速に行うことができた。閲覧数・登録者数を確保することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、参加者数は減少したが、感染対策を取りながらオープンスクール・入試説明会を適切に実施・運営することができた。 通年、Webページ・SNSによる情報発信を迅速に行うことができ、閲覧数・登録者数を確保することができた。それにより、開かれた学校づくりの一端を担うことができた。また、学校PR動画やプレゼンテーションの刷新により、学校ブランディングのきっかけを作ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> オープンスクール・説明会等のより効果的な実施内容・運営方法を検討し、入学志願者増加につなげる。 広報活動の充実と提案

学年分掌	令和元年度末の状況	令和2年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
学生会	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事に向けて早めに準備に取り組む必要がある。 定期的に集まり、現状の確認や審議を行う環境が必要である。 他分掌と連携を図り、スムーズな運営ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の充実 生徒会活動の充実 他分掌と連携しながら生徒会活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 7月のスポーツ祭および10月の学校祭が充実したものに、計画・実施する。 生徒会担当の先生方や中央委員と連携を図りながら、学校行事の充実を目指す。 学校生活をより充実したものにするために、定期的に部会を開き、議論する。 放課後の清掃点検や園芸活動を行う。 ボランティア活動の呼びかけを行い、生徒の参加を促す。 広報と連携し、定期的に松蔭TIMES発行を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> () B A 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響で延期となったため評価せず。 毎週放課後に議題を持ち寄り、積極的に議論することができた。今後は部員の参加率を更にあげていきたい。 福島ひまわりプロジェクトに参加した。冬に向け、新しく植える植物を検討したい。 ボランティア活動については適宜案内し、多くの生徒が参加している。 他分掌と連携を図り活動することができた。引き続き学校を盛り上げていけるように、積極的に関わっていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> A B A 	<ul style="list-style-type: none"> 9月に学校祭、及び11月にスポーツ祭を実施することができた。執行部、教職員、生徒をはじめ多くの協力のもとで、思い出に残る行事にすることができた。 生徒が主体となって行事の運営等を積極的に議論することができた。今後も生徒会全員で学校生活を充実したものに、活動を続ける。 他分掌と連携を図り活動することができた。また、引き続き学校を盛り上げていけるように、連携を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ祭で実施した感染症対策をさらに検討し、充実させたい。また、今年度の課題について、新生徒会執行部に引継ぎを行い、改善を目指したい。 園芸活動については新しく植える植物を検討したいと考えている。『松蔭TIMES』についても引き続き定期的に発行していきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 学習習慣の確立 家庭との連携 人権意識の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶と正しい服装の定着を図る。 睡眠、食事、健康面の管理に努め、充実した学校生活を送るよう指導する。 授業に集中して取り組み、日頃から計画的に家庭学習を行うよう指導する。 保護者へClassiの登録・活用を促す。 学校からの配布物や家庭からの回答を必ず提出するよう指導する。 家庭との情報交換をこまめに行い、諸問題の早期発見と迅速な対応に努める。 学校行事や学級活動を通し、互いを思いやり尊重する心を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> B B B B 	<ul style="list-style-type: none"> 登下校中や校内でのマスク着用を徹底するように繰り返し声掛けを行う。 生活リズムの乱れによる遅刻・欠席が見られる生徒について、家庭と連携して指導を行う。 授業に集中して取り組むとともに、他の人の学習の妨げにならないように配慮する姿勢を身につけさせる。 保護者のClassi登録及び連絡文書受け渡しの徹底について引き続き呼びかけをしていく。 引き続き迅速な対応とこまめな連絡・情報交換に努める。 新型コロナウイルス感染症の影響もあり未だに良好な友人関係を築けていない生徒もある中、少ない機会を活用して仲間づくりを促していく。 	<ul style="list-style-type: none"> B B A B 	<ul style="list-style-type: none"> HRでの指導等を通し、徐々にではあるが生徒自らが正しい制服の着用やマスクの着用を意識を向けることができるようになっている。 全体的には始業時間に余裕をもって登校し、授業の準備をする姿勢が身につけている。 1人ひとりが授業に集中できる環境作りを呼びかけ、徐々にではあるが状況が改善しつつある。 保護者のClassi登録については文書や懇談会などで依頼を繰り返し、概ね達成できている。 学校と家庭の連絡は概ねスムーズに行っている。 欠席や早退時の連絡も含め、何か変化や気にかかるところがあった場合にはこまめに家庭と連絡を取り合い、情報の共有と連携をすることができた。 学級活動や学校行事を通して少しずつクラスとしてまとまってきた。一方で思い込みや軽率な発言等が原因でトラブルになることがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 根気強く声掛けを継続していく。 次年度も早めの登校や朝読書の時間の有効活用などが継続できるよう、1人ひとりに意識を持たせる声掛けをしていく。 集中力が続かない生徒や課題提出が滞ってしまう生徒に対し、教科担当と協力して指導を行っている。 連絡を確認した後の「みました」返信の徹底を呼び掛ける。 呼びかけを継続して行う。 引き続き迅速な対応に努める。 相手の気持ちや自分の言動が周囲に与える影響をよく考えて発言・行動するように、折に触れ指導を行っている。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 【基本的な生活習慣・学習態度について】この1年間で挨拶の習慣や遅刻欠席の減少など概ね基本的な生活習慣は身に付いた。入学時と比較し、授業態度は良くなったが、主体的に学習に取り組むことができるレベルには至っていない。 【保護者との連携について】日頃からSNSやClassiでの情報を受け取る環境がある保護者に対しては効果があった。懇談等で活用できていない保護者へ促す必要がある。 【各クラスの状況】各クラスともクラスメイトと互いに支えあいながら生活を送る様子も見られるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の定着を目指す。 学習習慣の確立と進路意識の高揚を目指す。 家庭との連携を密に行う。 様々な教育活動を通して、人権感覚に優れた真に社会に役に立つ人材の育成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> B B A B 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年と比較するとSHR開始直前に慌ただしく登校する生徒は減少した。引き続き啓発をしていきたい。 家庭学習の促進については、継続して取り組みたい。自己を見つめ直し進路決定に向かうための時間が確保できなかったため、今後重点的に取り組んでいきたい。 学校からだけでなく、学年部としても臨時休業中の情報提供は多く行えた。また、学校再開後もノウハウを活かすことができた。生徒、保護者からの相談にも迅速に対応できている。 部活動の充実、本校の教育目標実現のために必要不可欠であるが、活動に制限がかかる中、どのように新しいスタイルを掲げていくのかが課題である。学年部としても生徒にどのように声掛けをしていくべきかを考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> A A A B 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻する生徒は大変少なく、SHR開始時の様子も落ち着いていた。遅刻が多い生徒に対しても保護者と連携を取りながら、改善に向けて努力することができた。 LHRや総合的な探究の時間に、学年全体やクラス単位での進路学習を設定し、進路意識の高揚を図った。進路決定への準備は着実に進めることが出来ている。 家庭との連携が密に行っており、各家庭と学校が一体となって、生徒の成長に向けて協力できていることを実感している。 コロナ禍で、各種行事や活動に制限がかかる中、工夫して教育活動や校行事を行ってきた。より一層優れた人権感覚を持つ生徒の育成のために努力をしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 【学習面について】この1年間で身に付けた基本的な生活習慣や学習習慣をさらに継続させ、主体的な学習者を目指す必要がある。生徒の多くは、希望する進路に合格・内定できる水準には至っておらず、更なる努力を促す必要がある。 【保護者との連携について】受験先の決定など、さらに連携を密にとる必要がある。コロナ禍が続き、オープンキャンパスや企業見学に制限がかかることも考えられるため、例年以上に情報提供の方法を工夫する必要がある。 【その他】研修旅行や各種行事の開催に引き続き配慮を要するため、生徒たちがいかに思い出に残る高校生活を享受するかを考えたい。 	
<ul style="list-style-type: none"> 各クラスでの指導や朝の見回りをし、少しずつ率先して挨拶したり、服装についても意識する生徒が増えてきた。また遅刻・欠席についても意識するようになってきた。 日々の授業に集中して取り組む生徒も増えた。自らの進路に向けて主体的に取り組む生徒もいるが、目標が定まらず受け身の生徒もみられた。 家庭との連絡をこまめにとり、保護者との連携は担任を中心にスムーズに行われた。 行き違いやトラブルなどもあるが、全体としては落ち着いてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の定着 学習習慣の確立と進路指導の充実 家庭との連携 人権意識を育てる 	<ul style="list-style-type: none"> B B A B 	<ul style="list-style-type: none"> 最上級生としての自覚が芽生えてきている生徒も増えてきているので、根気強く指導を続けていきたい。また、遅刻・欠席が続かないように、早めの声かけや家庭との連携を行う。 進路決定に向け各自が企業や学校を調べ、必要な学習に取り組もうとする姿勢が見られた。具体的な目標設定を促し、より主体的に学習へ取り組めるように努めたい。 遅刻、欠席が多い生徒や気になる点がある時は、担任がこまめに保護者と連絡を取り、協力・連携しながら指導を行った。 行き違いやトラブルなどもあったが、2学期以降の学校行事やクラスでの活動を通し、お互いに認め合い、成長できるよう継続して指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> B B A B 	<ul style="list-style-type: none"> 全体としては落ち着いており、最上級生としての自覚が見られるようになってきた。しかしながら、進路決定後に気持ちの緩みか、生活面でゆるみが見られる様子も見られた。 目標設定をし、就職・進学と取り組む姿勢が見られた。進路決定後もさらに高みを目指して学習に取り組む姿がある反面、学習に対する意欲が薄れた様子も見られるので、これがゴールでないことを再確認し取り組ませたい。 担任を中心にこまめに連絡を取り、保護者との連携はスムーズに行われた。 学校行事やクラスでの活動において、最上級生としての役割を果たそうとする姿が見られた。その取り組みを通し、お互いに認め合い、成長できる関係を築くことができた。 			